

第7編

文部科学省中間評価

1. がんプロフェッショナル養成プランの中間評価と改善計画

1-1 がんプロフェッショナル養成プラン（平成19年度選定）の取組概要及び中間評価結果

		整理番号	10
主担当大学 (連携大学)	順天堂大学 (明治薬科大学、東京理科大学、立教大学、新潟大学)		
取組名	実践的・横断的がん生涯教育センターの創設		
事業推進責任者	富野 康日己 (医学研究科長)		
(取組概要)			
<p>平成19年度「がんプロフェッショナル養成プラン」で選定された「実践的・横断的がん生涯教育センターの創設」は、順天堂大学がん生涯教育センターにおける“がん患者の視点”に立ったがん医療を大学改革の実践の場とする取組である。この取り組みは「裾野の広い、且つ高い品性」のある「がん医療」を目指し、大学の改革実践の「場」として「がん生涯教育センター」を創設し、順天堂大学附属6病棟の3199の病床に加え、養成環境を充実させるため、新潟大学とがん治療において高い臨床能力養成と実績をもつ5医療機関と連携し、教育研究・診療環境を整備した。また、医療スタッフ養成については、順天堂大学のほか連携大学院（東京理科大学、明治薬科大学、立教大学）との協力を強化し、患者の視点に立った医療を、順天堂学是「仁」（人を慮る心、慈しむ心）に基づき、がん医療を担う医療人養成を「がん生涯教育センター」を拠点に行うことである。</p>			
参考	平成22年5月時点の養成受入数：120人		
(がんプロフェッショナル養成プラン推進委員会による所見)			
(総合評価) B			
当初計画通りに取組は実施されているものの、計画達成のためには、これまで以上の努力が必要と判断される。			
(コメント)			
<p>本プログラムは、がん診療を専門的に行う医療スタッフも含めた医療チームを組織し、当該組織が教育プログラム実践のために有効に機能しているなど、がん医療の担い手となる高度な知識・技術を持つがん専門医療人の養成を図るといふ本事業の趣旨・目的に沿った取組を行っているものとして評価できる。</p> <p>一方、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・がん治療に係るチーム医療のトレーニングとして、3コースの職種が共同で参加する実地修練や合同カンファレンスを、よりきめ細かく実施すること ・化学療法に特化した講座の設置について検討すること ・大学間、コース間における具体的な連携体制が不明確である等、選定委員会での留意事項に対して適切な対応がされていないこと ・補助事業終了後の連携大学との連携のあり方について具体的に考慮する必要があること ・プログラム内での医療スタッフの役割を明確にすること <p>などについては、留意し、改善を行った上で、今後のプログラムを推進することが望まれる。</p>			

1-2 「がんプロフェッショナル養成プラン（平成19年度選定）」中間評価後の改善計画書

申請大学名	順天堂大学
取組名	実践的・横断的がん生涯教育センターの創設
連絡担当者	所属部局・職名 大学院事務室学術・研究支援課・主任、係員、係員
	氏名 高崎 覚、石梶 由紀、村里 麻耶

- ・ 中間評価における指摘を踏まえ、当初計画（申請時もしくは進捗状況報告書作成時における計画）をどのように改善するか記載してください。
- ・ 事項ごとにいつまでに改善するかを付記してください。
- ・ 対応すべき指摘事項が複数に及ぶ場合は、適宜下に項目を追加してください。

中間評価における指摘事項	がん治療に係るチーム医療のトレーニングとして、3コースの職種が合同で参加する実地修練や合同カンファレンスを、よりきめ細かく実施すること。	
	当初計画	改善内容
	全コース共通科目「コア実地修練Ⅰ（チーム医療）」において、合同で講義や演習、実習カンファレンス等を行い、チームが共有するミッションやそれぞれの職種に求められている役割等を学習する。また、3つのコースの全学年の院生参加による合宿研修を毎年開催し、相互理解やチーム医療に取り組む姿勢等を、本学学是「仁」（人を慮る心、慈しむ心）から薫陶する。	<ul style="list-style-type: none"> ・ チーム医療の講義を合同で行っており、各コースの学生が参加している。また、チーム医療合宿にも全ての職種から多数の参加を得ており、チーム医療トレーニングの基礎は整っている。 ・ キャンサーボードにはすべての職種から多数の参加をすでに得ているが、さらに大学院生と、インテンシブ研修生の参加をカリキュラムに組み込むこととする（平成23年4月までに実施する）。 ・ 平成22年度よりすでに「コンポーネント1」の講義において、従来の一般的な講義形式から、受講者参加型のディスカッション形式の講義を充実させている。平成23年度以降においても、受講者に多様化（職種・学年）がみられることから、大学院生の相互理解やチーム医療に取り組む姿勢を醸成する。さらに、「コア実地修練（チーム医療）」の座学講座に、ロールプレーを取り入れ、多職種でコミュニケーションスキルやリーダーシップ研修を十分経験した後、3職種共同で課題に取り組むチーム医療合宿を行い、より実地で生きる研修とする（平成23年4月までに実施する）。 ・ 現在すでに院内の一部の診療科で行っているが、腫瘍専門医の診療に各職種の大学院生・インテンシブ研修生が参加し、医師の視点のみならず、各職種の視点から、治療や患者支援、処方提言などの意見を交換する。（平成24年3月までに実施する）

中間評価における 指摘事項	がん治療に係るチーム医療のトレーニングとして、3コースの職種が合同で参加する実地修練や合同カンファレンスを、よりきめ細かく実施すること。	
	当初計画	改善内容
		<ul style="list-style-type: none"> ・緩和ケア領域において、がんプロの医師と看護師は、現在、医師、看護師、薬剤師、臨床心理士MSW、理学療法士の多職種で構成されている院内緩和ケアチームの活動に参加することで、実施修練がなされている。今後、緩和ケアチームの医療に関して、放射線物理士や他大学薬学部の院生との連携をさらに推進していく（平成24年3月までに実施する）。 ・さらに、現在までに行った3回のチーム医療合宿を受けて、今後「各職種が患者のために目的と情報を共有し、業務を分担しつつ互いに連携・補完し合う」というチーム医療の真の目的を達成するため「次世代のチーム医療を落ち着いて考える会」を患者をまじえた連携大学の各職種の教員により発足する予定である（平成22年12月までに実施する）。

中間評価における 指摘事項	化学療法に特化した講座の設置について検討すること。	
	当初計画	改善内容
	<ul style="list-style-type: none"> ・当初申請時の計画 化学療法に特化した講座として、内科腫瘍学講座（仮称）の開設を準備している。本プラン実施にあたって、本学におけるがんに関する教育研究体制を整備しているが、さらにがん最先端治療研究センター（仮称）の開設を目指している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・本学医学部では、悪性腫瘍科学研究室を立ち上げ（平成19年9月）、緩和ケア専門医（専任）、血液内科専門医（非常勤）と化学療法に関与する各科専門医により、がん治療センターで化学療法を行っている。さらに、化学療法に特化した講座の設置までは、現在、一部診療科で行っているように、連携しているがん専門病院の化学療法科を修練の場として、腫瘍内科医を育成し、化学療法チームを結成したい（平成24年3月までに実施する）。 ・化学療法に特化した講座（研究室）の開設に向けて、がんプロ採択時より、専任教員の募集を行ってきた。これまでに3名程度の候補者が挙がったものの最終的に決定するまでには至っていない。今後も講座設置に向けて医学部・大学院医学研究科、がん生涯教育センター運営委員会等で継続的に検討を行う。 ・東京理科大学薬学部において化学療法を実践的に学ぶ講座を開設し、症例シナリオを基に選択された化学療法のエビデンス確認とレジメンの問題提起を行うPBLを行ってきた。さらに今後、最適な化学療法の処方提案（支持療法も含めた）を行うPBLに発展させる予定である。

中間評価における 指摘事項	大学間、コース間における具体的な連携体制が不明確である等、選定委員会での留意事項に対して適切な対応がされていないこと。	
	当初計画	改善内容
当該事業拠点のがん生涯教育センターを中心に各コースの事業構成を確認し連携大学運営委員会で大学間の具体的な運用を検討している。		<ul style="list-style-type: none"> ・ 立教大学との連携は医学物理コースにおいて双方の教員が互いの大学での講義を行うなど当初の予定通りの連携を行っている。今後は、連携をさらに強化する（平成24年3月まで確認済みである）。 ・ 一部の診療科（乳腺科、呼吸器科、小児科など）では明治薬科大学などの薬学部院生を医学部附属病院のがん診療見学・実地研修・臨床試験の共同開発などに組み込み、臨床薬剤師育成のためのカリキュラム作成に取り掛かっている。今後、この取り組みをさらに発展させ、全薬学系連携大学とのつながりをより強化なものにする（平成24年3月までに実施する）。 ・ 新潟大学は他の連携大学と異なり遠隔地にあるため連携がとりづらい面がある。しかし、下記に示すがんプロアカデミア等を設置したことにより、今後密に連携をとる体制は整った。 <p>① 大学間・コース間における連携強化目的に、連携大学院教員が構成員となった「がんプロアカデミア世話人会」を平成22年度6月より実施している。各連携大学院が持ち回りでがんプロの合同シンポジウムを企画するなど、連携大学院間の連携の強化、受講生・教員の交流を図っており、平成22年度においては明治薬科大学大学院主催によるがんプロ合同シンポジウムを11月26日に開催、さらに、平成23年1月には米国からがん専門臨床薬剤師を招聘し、東京理科大および順天堂大学医学研究科とも連携して国際シンポジウムを企画している。</p> <p>② 連携大学間・コース間における具体的な連携体制としては、大学間における実習の受入れや、講師の相互派遣、職種の枠を超えたテーマによる講義の実施、講義のWEB配信による大学相互のe-learningシステム(3eRec)を構築するなど教育上の連携体制を強化した。平成22年度以降においても継続的な展開を行う。</p>

中間評価における 指摘事項	補助事業終了後の連携大学と連携のあり方について具体的に考慮する必要があること。	
	当初計画	改善内容
	<p>本学では、がん生涯教育センターを、今回のがんプロフェッショナル養成プラン採択の有無にかかわらず設置し、インテンシブ（専門医師）研修コースについては、申請時から実施する等、本プランは、実施可能な内容であり、プログラム終了後においても、がん医療に習熟した医師等の専門家の養成機関として、がん生涯教育センターを継続して運営する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 立教大学との連携はすでに当初の予定通り確立しているが、がんプロ事業終了後も継続的にがん専門家養成のための活動を継続していくことを確認している。 明治薬科大学、東京理科大学などの薬学部大学院生が本学附属病院においてすでに実施している活動を軸とした臨床薬剤師養成のためのカリキュラムを完成させ、事業終了後も全薬学系連携大学とのつながりをより強化なものにする（平成23年12月までにカリキュラムを完成させる）。 新潟大学との連携は事業終了後も e-learning システムを用いた講義のWEB配信や講師の相互派遣、チーム医療合宿における交流を介して継続していく（平成24年3月以降も継続）。 補助事業終了後も、本学においては、がん医療に習熟した医師等の専門家養成機関としてがん生涯教育センターを継続して運営し、当該教育プログラムについても大学院医学研究科の授業科目として継続し、大学院生を受け入れる予定である。また、連携大学院との関係については、補助事業終了後も引き続き講義のWEB配信や講義への講師派遣、定期的チーム医療を学ぶ企画など教育上の連携を継続して行う予定である（平成24年3月以降も継続）。

中間評価における 指摘事項	プログラム内での医療スタッフの役割を明確にすること。	
	当初計画	改善内容
	<p>各コースの授業科目ごとに、担当教員及び授業科目の概要を一覧にし、申請時に提出。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 本学ではがん生涯教育センターに本プログラムの運営委員会を置き、定期的に委員会を開催している。委員は、以下のとおり、医師・看護師・薬剤師・医学物理士よりなり、各職種の教員スタッフによる連携を図り、プログラムの推進を図っている（各教員の担当については、別紙参照）。